

光明小学校区教育環境適正化検討委員会

第1回 会議概要

開催日時	令和6年(2024年)11月5日(火)9:00~10:10
開催場所	光明小学校 4階 多目的室
出席者	【委員】出席21名 (欠席)2名 【その他同席者】同席3名 【教育委員会事務局】出席4名
次第・議事	1 開会 2 出席者紹介 3 議題:光明小学校から進学する中学校について 4 閉会
会議の主な結果	本日の会議も含め、これまでいただいたご意見を基に教育委員会事務局でまとめていく。
会議録(要旨)	
事務局	<p>【1 開会】</p> <p>【2 出席者紹介】</p> <p>【3 議題:光明小学校から進学する中学校について】</p> <p>光明小学校は、各学年単学級で1学級当たりの児童数が少ない中、多くの児童が宝塚第一中学校に進学する一方、福井町の児童のみが高司中学校へ進学するという課題があった。また、宝塚第一中学校に進学する児童の保護者から、通学距離の遠い宝塚第一中学校よりも、近くの高司中学校に進学したいとの意見が PTA や学校に寄せられ、PTA 主体で今年の11月頃にアンケート調査が実施された。このアンケート調査において、高司中学校への進学を希望する意見もあったことを受け、PTA から教育委員会に相談があった。</p> <p>本市の教育環境の課題として、1つの小学校から3つの中学校に進学する学校や4つの小学校から進学してくる中学校があるなど、小中学校間の通学区域の整合がとれていないということがある。今後、小学校・中学校の義務教育9年間を見通した連続性・一貫性のある教育活動を全市的に推進していく中で、小中学校間の通学区域の整合は取り組んでいく必要があり、光明小学校の2つの中学校に別れて進学している現状についても、保護者・地域から意見を聞きながら、中学校区の在り方について検討をしていくことになった。</p> <p>そして、今年度、保護者や地域の方々のご意見を聞く機会を設けさせていただき、色んなご意見を頂戴したが、光明小学校に係る保護者や地域・関係団体の皆様が一堂に集まってやりとりする機会がなかったので、今回、「光明小学校区教育環境適正化検討委員会」という名称で会を設け、集まっていた。</p> <p>初めて聞く方もいらっしゃるかもしれないので、これまで説明してきた内容をざっと説明させていただきます。皆様からは忌憚のないご意見をいただけたらと思う。</p> <p>資料1ページ</p>

2 光明小学校の現状について

(1) 児童数・学級数の推移

光明小学校は昭和54年に良元・末成小から分離して開校した。いきなり児童数のピークを迎えているが、これは(昭和46年から昭和49年の)第2次ベビーブーム(年間出生数約210万人)の影響で、光明小学校が開校した昭和50年代は本市においても人口急増期にあたり、この時に市内に多くの学校が建設された。そして、昭和の後半から児童数が減少し始め、平成30年度からは各学年単学級になり、児童数も180人前後で推移している。

(2) 令和6年度の在籍児童数

特別支援学級の児童数も含んだ数字である。今の6年生が22人と少ないが、大体1学級30人前後となっている。

(3) 住民基本台帳による町丁別歳児別の人口

光明小学校区は、福井町、小林3丁目8番9番、小林4丁目7番、光明町が校区になる。福井町在住の児童が高司中学校で、それ以外の地域が宝塚第一中学校に進学となる。各世代とも、大体、宝塚第一中学校に進学する児童の数が多いが、この8歳児の福井町の子が6人、それ以外の地域の子が20人と、時々福井町の子が極端に少ない時があり、過去には1人だけ高司中学校に進学するということがあった。今後、光明小学校に入学してくるであろう5歳児以下も30人前後であるため、今後も同じような状況が続くことが予想される。

資料2ページ

3 光明小学校から進学する中学校について

宝塚第一中学校と高司中学校の今年度の生徒数と学級数である。両校ともに適正規模の学校で、1学年当たりの生徒数の1割前後が光明小学校から進学する児童の割合になる。

4 光明小学校における中学校区の変遷

昭和50年以前は、光明小学校区一帯は宝塚第一中学校区で、昭和51年に高司中学校が開校してからは、光明小学校区全域が高司中学校区に編入された。昭和63年に宝梅中学校の少し上に光ガ丘中学校が開校したことに伴い、学校間の生徒数のバランスをとるため、武庫川右岸側全域の校区編成が必要となり、この光明小学校についても福井町を除く光明町、小林3丁目8番9番、小林4丁目7番が宝塚第一中学校に編入となり、今に続く。

5 光明小学校の校区図

色で塗りつぶしている箇所が小学校区で、光明小学校区はピンク色になる。ピンク色の太線が中学校区で、光明小学校区の真ん中を中学校区が通っており、左側が宝塚第一中学校区、右側が高司中学校区になる。地図を見ていただいたら分かる通り、宝塚第一中学校に比べて高司中学校の方が比較的近いところにある。

以上が光明小学校の現状である。

資料3ページ

6 光明小学校から進学する中学校への課題

(1) 進学先の中学校が複数校であることの解消

この課題が解消されることにより、①小学校・中学校間のスムーズな連携の確保と②友人関係が少ないことによる子どもたちの精神的負担の軽減がある。

まず、①だが、今でも高司中学校区の光明小学校、末成小学校、良元小学校、そして高司中

学校長で教育方針や課題に関して連携・共有をしているが、小学校での指導内容や生活指導がスムーズに中学校に引き継がれ、子どもたちにとって一貫性のある教育が提供されやすくなる。また、配慮が必要な子どもや家庭に対しても、中学校に進学しても支援しやすいというがある。

次に②だが、冒頭の説明にもあったとおり、単学級かつ少人数で2校に別れて進学するという状況が光明小学校の課題にあると説明したが、学校に進学すると、学習内容や交友関係など、新たな環境となり、それが子どもたちにとって精神的な負担となり、中1ギャップと言われるような不登校につながることもある。光明小学校の子どもたちは一緒に進学するお友達が複数学級あるような学校に比べて少ない状況にあるため、他校の子どもたちに比べて進学時の不安感が大きいと考えられるが、これまでの交友関係を維持したまま、みんな同じ中学校に進学できると、子どもたちの安心感を育むことができ、中学校生活も楽しく過ごせることが期待できる。

(2) 登下校に係る負担軽減と安心安全な通学路の確保

先ほどの校区図でも示した通り、宝塚第一中学校に比べて、高司中学校が比較的近い距離にある。このことにより、子どもたちの通学に係る時間や体力面での負担軽減が期待される。今年の夏は非常に暑かったが、登下校中の熱中症リスクにも配慮していかなければならない。そして、交通量の多い幹線道路を避けた通学路の確保にもつながる。

以上を踏まえた課題に関して、

7 光明小学校から進学する中学校について

光明小学校区全域を高司中学校区に編入するとともに、経過措置を設ける。経過措置の内容については、これまで保護者、地域や未就学児がいる世帯の方々への意見を聞く中で、光明小学校区に居住している方で、①2012年4月2日～2025年4月1日に生まれた者であるとき、②で①の期間に生まれた方のきょうだいで、2025年4月2日～2027年4月1日に生まれた者であるとき、保護者からの申請に基づいて、宝塚第一中学校への就学学校の変更を許可する、という形で考えている。

これは福井町にお住まいの方についても、申請をしていただければ、宝塚第一中学校に進学することができる。

未就学児がいる世帯の方々へ説明した時に、今生まれている、今後生まれてくる方、そのきょうだいについてのお話もあったので、2025年4月1日までに生まれた方も対象としている。

資料4ページ

(参考1) PTA実施のアンケート調査について

合計2回実施しており、それぞれの質問項目と、それに対する回答の割合、主な意見という形で記載している。この主な意見については、どちらかの意見というわけではなく、満遍なく意見を記載している。

1回目については、中学校区が分かれることに関して、どう考えられているかというところを目的に実施された。(3)質問項目と回答割合を見ていただくと、中学校区が分かれることに対してどう感じるかとか、どちらの中学校に通わせたいかとか、そのような形でアンケートが実施された。

2回目については、1回目の内容が漠然としたものだったので、2回目は質問項目を詳細にして実施された。中学校区についてどれがよいか、それに対しての主な意見をこちらの方に列

	<p>挙させていただいている。</p> <p>資料5ページ</p> <p>(参考2)教育委員会事務局が行った保護者・地域等への意見聴取等について</p> <p>1のPTA、保護者については、5月14日にPTAの方々に説明させていただき、5月29日に保護者全体向けに説明を行った。9月3日、10月1日はPTAの方々に進捗の説明をしたところである。</p> <p>2の地域住民・未就学児世帯につきましては、6月15日はまちづくり協議会、9月1日は光明町自治会、9月25日は未就学児世帯、10月6日は光明町自治会に説明を行った。</p> <p>5月29日の保護者への説明会の中で、小学校6年生の学校見学の機会を設けて欲しいというご意見があったので、宝塚第一中学校と高司中学校それぞれの見学を、6月末から7月頭にかけて実施した。</p> <p>それぞれの意見聴取等で出た主な意見を①～⑩に列挙している。</p> <p>事務局からの説明は以上である。</p>
事務局	この件について、ご質問はあるか。
委員	経過のところで、大体この内容は分かるが、以前、分かれたところは、なぜそういうふうに分かれていたのか、詳しいことが分かれば教えて欲しい。
事務局	分かれたというのは、もともと高司中学校が開校したときは、高司中学校だったけども、光ガ丘中学校が出来て、福井町とそれ以外の地域が何故分かれたか、というところか。
委員	そうである。それと宝塚第一中学校にもともとあったのに、その辺が何故そのままになっていたのか。
事務局	<p>2ページ目の光明小学校区における中学校区の変遷で、昭和50年以前は、宝塚第一中学校区であったが、まずこの辺り一帯は田んぼであった。高司中学校が出来た後も、住宅開発等が進み、人口急増がしてきたので、昭和63年に光ガ丘中学校が出来ると、その時に、多くの小・中学校が出来た。</p> <p>右岸側に光ガ丘中学校が出来た時には、宝塚第一中学校、宝梅中学校があったので、学校間の児童生徒数のバランスを取る必要があった。宝梅中学校と宝塚第一中学校の一部校区が、光ガ丘中学校区になったので、宝塚第一中学校がその分の生徒数を受け入れる余裕が出来たので、高司中学校区も一部、宝塚第一中学校に編入となった。</p>
委員	分かった。
委員	2ページ目、3 光明小学校から進学する中学校について、クラス数と生徒数が書いてあるが、例えば、光明小学校の30人がどちらの学校へ行こうか、受入体制に問題はないのか。
事務局	各中学校に説明しているが、光明小学校のお子さんがどちらかの学校にまよって進学した

委員	<p>としても、適正規模の学校に変わりなく、影響がないということで、回答をいただいている。</p> <p>分かった。</p>
委員	<p>2ページで説明された、昭和63年頃、光ガ丘中学校ができて、学校間の人数のバランスをとるために、いろいろ調整されたとおっしゃられたが、こういう人数の少ないところを分ける方法だったのか。例えば、宝梅中学校、宝塚第一小学校あたりの人数が多いところを分ける、というようなことは考えなかったのか。アンケートの中に校区を考えて住居を決めたという方がいるのに、ちょっとかわいそうかなと思う。その校区の分け方、基本はどこにあったのかというのが知りたい。</p>
事務局	<p>光ガ丘中学校開校に伴い校区編成をしたというところだが、この時、宝塚市内全域が人口急増期で、小学校中学校の児童生徒数がともに増えていた状況にある。</p> <p>それで、光ガ丘中学校もできたのだが、宝梅中学校のすぐ近くにできたので、そのあたりの校区を再編していった形になる。右岸側の宝梅中学校、光ガ丘中学校、宝塚第一中学校の児童生徒数を調整していた中で、宝塚第一中学校の方が生徒数の受け入れ枠ができたので、高司中学校から一部、宝塚第一中学校に編入したような状況になる。</p> <p>今も宝塚第一小学校は大規模な学校になるが、この当時は、市内どこの学校も児童生徒数が多く、子どもの数がピーク時のところにあり、その中でバランスを取った形になる。</p> <p>今は、小学校中学校ともに児童生徒数が減ってきている。人口急増に合わせて学校をどんどん建ててきたが、今は小規模になっている学校も出てきている。その中で、冒頭にも説明した通り、1つの小学校から2つの中学校に分かれて進学するとなると、9年間の小学校中学校の連続した教育活動の連携が取りにくいということもあって、全市的にこの通学区域の不整合の解消を図ろうとしている。</p>
事務局	<p>校区の歴史的な話になってくると、そもそも学校というものは、小学校は昔、集落単位でできたが、現行制度上の中学校は、昭和22年の学校教育法が施行された時にできた。小学校は開校150年の歴史があるが、中学校はそれほど歴史がない。昭和22年から現行の中学校ができたので、まだその年数でしかないということである。</p> <p>当時の宝塚市は、まだ市政運営していなかったもので、町村に1つの中学校をまず設置している、ということで設置されたのが、良元村にあった宝塚第一中学校である。</p> <p>当時、今の西山小学校の位置に宝塚第一中学校があって、昭和35年か36年ぐらいに、今の位置に移転し、宝塚第一中学校の跡地が西山小学校に変わった。だから、実は宝塚第一中学校と宝塚第一小学校は、隣同士であった。そんな状況で、宝塚第一中学校と宝塚第一小学校の距離が離れていても、同じ名前ということである。ということで1町村に1つの学校から始まってきて、人口が増えてくるとそれに合わせて、学校ができてきた。</p> <p>この良元村の2番目の学校が昭和35年に開校した宝梅中学校。ちょうど仁川・小林あたりと、それと逆瀬川・南口あたりに1校ずつできた。それでもなかなか受け入れが十分でないということで、後に高司中学校ができてきて、位置的にはバランスよくできたが、右岸側に人口が非常に集中していた。右岸側と我々は言っているが、武庫川の上流から見て右側、安倉とか美座</p>

とか山本とか川面とかあたりは左岸側という。

先ほども人口が増えてきたからという説明だったが、実は昭和50年代後半から少子化が始まってきたので、今後の人口というのは一定目途は立つだろうと思っていた。しかしながら昭和60年代に入ってから、学校を作るための特例債と言って、借金をして作るのだが、特例が認められる最後の時期だったので、宝塚市としては何とか急いで中学校を作らなければと。マンモス校が3校並んでいるので、何とかこの右岸側に中学を急いで作りたいという、そんな背景があった時に、中学校を作るだけの大きな土地が当時見当たらなかった。昭和60年になると、大体住宅開発が進んでおり、宝塚の場合には、昭和40年代に大きな住宅開発が進んだため、もう大きな土地というのは空いていなかった。空いていたのが、光ガ丘の山の上である。開発時の残った土地が空いていて、それを市が譲り受け、市が借金をしたり、国のお金をたくさん使ったりして、学校が建設される最後の時期に間に合わせるために光ガ丘中学校を作ったという経過があったので、宝梅中学校のすぐ上に作ってしまうこととなった。

光ガ丘中学校と宝梅中学校だけで校区を調整すると、小さな学校が2校になってしまい、宝塚第一中学校や高司中学校に多くの子どもがいて、バランスが取れなくなっていたので、この右岸側、旧良元村全域で校区編成が必要になり、光明町については、宝塚第一中学校に行ったり高司中学校に行ったりということで、人数調整をしなければいけなかった。

そういう背景があって、光明町、小林3丁目8番9番、或いは小林4丁目7番街区の方については、校区を行ったり来たりということが発生した。

課題というものがその時々にある。まず、社会的な課題の1つに人口減少。これは平成22年の国勢調査で明らかになったが、国勢調査というのは、大正9年に第1回目の国勢調査があって、戦時中を除けば、人口というのはずっと増加してきたが、平成22年に初めて、人口減少という局面を日本で迎えるようになった。そこからは、ずっと人口が減り続けている中で、どのようにこの行政課題を克服していくか。人口が増えた時に学校が増えてきたという社会的な問題。

それと教育的な問題で、子どもたちの発達の早期化というものがある。昭和22年に今の学校教育法ができて、6334制ができた時に「13歳から別のカテゴリーで勉強した方が良い、伸びるだろう」と言われていたところが、2年ほど早まっているのではないか、今の5年生ぐらいの知識・意識レベルというものは、中学校へ行った方がより伸びるのではないか、と言われている。子どもたちの体の成長も2年間ぐらい早くなっているだろうと言われている。

そうしたこともあって、つい最近まで中1ギャップと言われたものが、小学校5年生ぐらいから不登校の増加傾向というものが顕著になってきていると言われている。これは全国的な傾向で、不登校・いじめも相当数増えたというのが、文科省からもつい先日発表があったように、その早期化というのにあわせて、大きな課題となっている。

社会的な課題というのは、もう少し時間をかけながら検討していかないといけないが、この教育的な課題というものについては、校区の整合を図ることによって、小学校と中学校の9年間、教育目標を1つにしなから、子どもたちを見ていこう、と。宝塚の場合はさらにその前の就学前から、幼稚園であったり保育所であったり、こうしたところも小学校へうまくつなげていこうということで、平成29年に幼児教育センターを作った。教育委員会というのは、公立幼稚園にしか対応してこなかったが、教育委員会内に幼児教育センターを作ることによって、私立幼稚園や公私立保育所に教育というカテゴリーも入れていこう、小学校にうまくつなげていこうという取組をして、就学前から中学校までの義務教育の期間をかけて、子どもを育てていきたいという思

いから、それまでの課題であった小中学校の校区の不整合を少しずつでも整合をとっていききたいとなった。

PTAからのアンケートはきっかけにすぎず、市としてはこの9年間、しっかりと子どもたちを見ていこうということから、この校区の整合によって取り組んでいきたいという思いである。

今日、皆様にご検討いただきたいのは、この考え方にご賛同いただけるのかということとあわせて、そのためには、校区を宝塚第一中学校区から高司中学校区へ変えていかないといけない、その手続きを進めていこうとしているが、そこに対するご意見と、緩和措置というものが必要である。

先ほどのご意見にあったように、宝塚第一中学校区だと思って住んでこられたというのも、当然、住居を決める時の大きな要因の一つである。私も子どもがいたので、どこの学校に行かせたい、どんなふうに教育したいという思いを持ちながら子育てをしてきているから、そこを否定するわけではない。今生まれているお子さんや、或いは生まれてくるお子さんとあわせて、ご兄弟が行っている間とか、そうした期間設定をすることで、思いを持って当該地域に住まわれた方に対する緩和措置を設けることに対し、どういう意見をお持ちなのかを聞かせてもらった上で、教育委員会として最終的に方向性というものを早く決定していきたいと思っている。

学校から話を聞くと、6年生はもう高司中学校へ、というような意見を聞いているので、なるべくその決定を早くしてあげて、子どもたちに早く伝え、一緒に学校へ行くんだなという思いをきちんと醸成していかないといけないなと思っているので、急遽お集まりいただいた。

目的は、教育的課題を解決しないといけないということの共通認識、それとそのための方策としての校区変更とその間の一定期間の激変緩和措置を行うということについて、ご意見をいただければと思っている。校区の問題とあわせて、今日の目的と、皆様方にお考えいただきたいことをお話させていただいたので、今後はその視点でご意見いただければと思う。

委員

私は高司中学校に行くことに賛成である。ただ、小学校も良元に行きたい、宝塚第一中学校に行きたい方は、前から良元小学校に行くことができるような選択肢があってもいいのかなと思った。それが、先ほどおっしゃられた友人関係が少ないことによる子どもたちの精神的負担の低減になるなら、小学校に行く段階から、選択肢を与えてもらう方が、ご家族での話し合いとかでも、いろいろ選択肢が増えて、将来的には良いのかなと思う。

事務局

小学校のタイミングから選択ということだが、先ほど事務局からの説明があったとおり、全市的に義務教育9年間を見据えた校区の整合を図っていくところがあり、それとあわせて、小中一貫教育の導入も市で考えている。その中で、小学校の通学区域もどうしていくかというのは検討していく形になるので、その中で検討したいと思う。

委員

私は小学校からの選択は反対派で、今、光明小学校はものすごく人数が少なくて、どのように存続していったらいいかなというのを光明町自体で考えているので、そこからやっぱり目減りするというのは、町内からすると懸念している。

小林団地が今全部出されていっており、その後の活用方法がまだ決まってないかもしれないが、あの規模で、また同じ団地が立つ、同じ集合住宅が建つとなると、人口的にも変化が出るのかなというところは、考えに入れておいてもらえたらと思う。

	<p>後、個人的な意見で申し訳ないが、学校間の学力格差などは、市でどのように考えているのか。というのは、子どもを通わせる時に親として学校のそういったことを考えてしまう一面もあるので、学力格差と学校のイメージ的な差をなくす努力をしてもらえたらと思う。</p> <p>後、今、お子さんを生んでいる方だけでなく、今から光明町に引っ越しされる方もいらっしゃるので、そういうところも含めて、もうちょっと年代の間口を広げたらどうかとも思う。</p> <p>事務局</p> <p>1点目の県営小林団地の跡地の件については、県から具体的な方向性というのをまだ把握していないので、情報の把握に努めていく。</p> <p>学校間の学力格差については、教えている公立中学校の先生は、全員人事異動があり、高司中学校で教えている先生も宝塚第一中学校で教えることもあるので、基本的に教育活動の中での学力格差というのは生じないと考えている。</p> <p>学校のイメージについて、現在、各校のホームページで自校の校風等を発信しており、高司中学校でしたら、最近、玉井陸斗君がオリンピックでメダルを取ったので、その表敬訪問で高司中学校にサプライズ登場したとか、そういった取組というのでも発信している。</p> <p>オープンスクールとかで保護者も学校を見る機会があるので、そういうところで見ていただけたらと思う。もちろん教育委員会としても、学校から対外的に情報発信をしてもらえるように話している。</p> <p>経過措置を時限的に設けたのは、子どもたちの悩む期間がその分長くなってしまうので期間を定めて欲しいというご意見もあったので、一旦期限を区切り、今年度内に生まれた方に限定している。市のホームページで校区の情報を発信しているので、これから校区を考えて住まわれる方に関しても、そこを見ていただいた上で、判断していただくような形を考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>9年制を推進していくということで、今後は小学校と中学校が一体化した小学校ができたりするのかなというのと、これに伴って、また学校が変わっていく恐れが出てくるのかなという、そんな見通し的なものを教えていただきたい。</p> <p>先ほどのご意見にあったように、学校間の学力格差について、私が思うには、その子自身のやりようによって、どうとでもなるのかなというふうに思う。学校といっても、学力の差はそれぞれ個人にあると思う。その中で、あっちの方がいいとか、そっちの方だったら学力が落ちるというのは、こちらの思い込みであったり、差別になるのかなというふうに思うし、実際、学校に通っているお子さんもいらっしゃる中で、そういう評価をしてしまうのは、人権的にもどうなのかなというふうに思う。学校単体というよりは、子どもたちにどうしてあげたらいいかということを中心に考えてあげたほうがいいのかと思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>小中一貫で学校が変わる可能性、今後の見通しについて、基本的に全市的に小中一貫教育、小中一貫校、そういう取組を推進しているところである。児童数が多いところは、やはりまとめるというのは校舎の規模的にも難しいので、大規模な学校については、児童数がある程度減ってきてからとか、推移を見る形になる。</p> <p>光明小学校についても、児童数が減ってきているが、先ほどの県営小林団地の跡地の件で、団地みたいなものが開発されると、一気に児童数が増えてきて、光明小学校周辺の学校で受け入れができるかということ、ちょっと難しいところもあるので、その現状も見ていきながら、こ</p>

	<p>の地域の小中一貫の導入というのは、検討していくことになる。</p> <p>ただ小中一貫校が難しくても、先ほど言ったように、小中連携という形で、小中一貫教育に向けた取組というのは進めていけるのかなと思っている。</p> <p>小中一貫で校区の変更が起きるかどうかにしても、中学校区を中心に校区再編を考えているので、何年先になるかというところだが、校区の変更の可能性はないようには、今整理しているところである。</p> <p>平成28年度(2016年度)に教育制度が変わって、義務教育学校という9年間の学校ができた。いわゆる小中一貫校のことである。そうしたことを推進していく上で、それを導入する時に、また全体的な校区変更になって、宝塚第一中学校から高司中学校、高司中学校から宝塚第一中学校、という繰り返しになるのではないかとのご質問とすれば、それが無いように、長期的な視点でもって、学校区の整理をしていかないといけないと思う。</p> <p>その上で、考えていかないといけない視点がある。学校というのは旧の集落単位でできてきたという経過がある。昔、鹿塩にも学校があった。ただ、昔の学校というのは、空いている家の1室とか、お寺の境内の1室で10数人の子どもたちが勉強を始めたことによってできてきたもので、一定の学校規模になったのは今の町村単位というのが整理された明治22年からである。鹿塩や蔵人にも学校が、小林には今の良元小学校が、昔の小林小学校というものがあって、それが最後統合されてきたという経緯がある。集落単位で学校というものができてきた経過を考えると、地域単位での活動が今でも残っているので、そうした地域性というものを十分に尊重した上で、地域単位で学校を整理していこうと考える必要がある。</p> <p>もう一つは、幹線道路。安全に登校できるという視点を考えると、中津浜線が一つの校区の境界になってくるだろうということである。武庫川沿いのところで一つの地域、山側で一つの地域、そして、鹿塩であったり小林であったりと整理をしていくと、中津浜線から向こう側のところが、一つ或いは2つぐらいの学校単位になってくると考えれば、その中で校区の整備をすると、一定の将来的な校区の整合が保たれていくというふうに考えている。そういう視点を持っているから、将来、9年制が導入されたからといって、校区が変わるということがないことも見据えての、今回の提案ということである。</p>
<p>事務局</p>	<p>基本的には賛成だが、5年生、6年生ぐらいが選択するのであったら、その選択に際して、すごく重要なことかなと思うのが、市の部活動の地域移行についてである。令和8年に完全完了という予定を聞いているので、それに関して、宝塚第一中学校のサッカー部に地域の方に入ってもらい、グラウンドを使用してという形を作ってくれている。</p> <p>そういったことは、他の学校ではまだ目途が立っていないという状況で、もともと宝塚第一中学校校に進学予定だった子達が高司中学校へとなると、部活の問題がすごく子どもたちの中で選択する要素として大きいと思う。そういったことで現状どれぐらい目途が立っているのかか、今後どういうふうに進めていく予定なのかというのは、やはり高学年の子たちには、特に先に説明しておく必要があるのかなということと、保護者にもそういった説明を今後していってもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>部活動の地域移行について、小学校の保護者にはまだ聞きなれない言葉かもしれないが、</p>

中学校では、保護者にアンケートを今とっている途中になる。

学校で教師が顧問をする部活動、これの運営主体は学校である。活動拠点も全て学校になるが、その部活動の維持というのが、今非常に困難な状況になってきている。それは部員数が非常に少なくなってきたということ。それと指導者。昔は中学校教師＝部活動顧問・監督という意味だったが、決してそうではなくて競技経験のないものが指導しなければいけない部活動の数が非常に増えてきて、部活動の維持が非常に困難になってきた。それとあわせて教師の働き方改革。要するに授業になかなか集中できない環境の中で、授業のクオリティを上げていくためには、教師の部活動にかかる時間を少しでも軽減していかないといけないといったところで、地域に指導者を委ねていこうということである。

極端なことを言うと、小学校の野球とかサッカーを中学校でもどんどん導入していこうということで、宝塚第一中学校のサッカー部については、小学校でサッカーをされている仁川のサッカークラブという団体に指導をお願いしている。中山五月台中学校のサッカー部もそうである。

今後は、他の部活も、順次、地域移行に取り組んでいき、令和8年の中体連、いわゆる大会が終わってからは、全て地域に委ねていこうという計画があって、中学校までは一定周知できているが、小学校にも周知して欲しいというご意見について、11月下旬には小学校5、6年生を対象にアンケート調査とお知らせ、こんな取組をするということを実施していく予定であり、小学校にも十分に説明をしていきたいと思う。在籍する学校に関係なく活動に参加できるようになるので、自分の通っている学校にはない、或いは周辺にない活動であったとしても、少し遠くまで行かないといけないが、活動には参加できるというそんな仕組みに今後変わっていくことである。

委員

この学校に着任して1年半だが、20年ほど前にもこの学校に勤めていた。その頃は3クラスの学年があったこともあり、先ほど話に出た県営住宅の跡地にすごくたくさんの方が来たら、これこそうれしいことだなと思っている。この学校で受け入れるキャパはあるし、おそらく高司中学校にも宝塚第一中学校にもそれはあると思っている。

当時の6年生が一番初めに私に言ってきたことは、「校長先生、何とか皆で同じ中学校に行かせてください」ということだった。確かに、小学校で仲良く、少人数だが活動してきた。特にこの学校は特別活動について、学級会や児童会活動で、本当に縦割りの中で、自分たちで良い生活を作っていこうということで、アイデアを出し合ってきた。ただ先輩に聞くと、宝塚第一中学校、高司中学校もそうではなく、先生が言うことについて、「はい、はい」と言ってくるので、小学校でしてきたことが繋がっていかないというのが、確かに子どもの声であった。そのころから、小中一貫というか、小学校の子どもたちがみんな同じ中学校に行けば、もっともっと地域がよくなるんじゃないか、学校がよくなるんじゃないか、という希望もあったのは事実である。

光明小学校は、保護者がたくさん朝送ってくれている。その中で、おそらく6月ぐらいだったと思うが、校長先生、何とか中学校にもこの学年から行かせてもらえないかということを書いてこられた。先ほど説明があったように、教育委員会からは「多くの見直しのことを今話し合っているとこなので、そういう声があるなら、またそういう意見も参考にしたいから教育委員会に連絡してください」と言われた。そのことを保護者に伝えたが、後でどなたも電話されなかったと聞いた。ただ、校門のところではいつも私に言っておられるので、学校には言いやすいけれど、やっぱり教育委員会へは敷居が高いのだなと思った。

その上で、PTA会長に相談をし、同じ学校に行かせて欲しいという保護者が多かったので、どうしていいのかわからず、とりあえずアンケートをとりましょうということで、この結果である。

反対の方というのが、2回目のアンケートの13.3%、これぐらいの数の方は、やはり宝塚第一中学校に行きたいということで、家を買われたということじゃないかなと思う。校区というのは、本当にその状況で変わっていくというもので、固定ではないということが、まず認知されていないというのが1つ大きな課題かと思う。同じ中学校でしっかり学ぶということは、やはり小中一貫を目指しながらやっていきたいなど教員としては思うので、その原案には賛成で、選択制の期間はずっとでも良いかもしれない。

先ほど、意見に小学校も選択させて欲しいということがあった。ただ今回の中学校区の一番いいところは、光明小学校区と良元小学校の間に走っている中津浜線で、光明の中津浜線沿いできっちり分けてもらえたら、本当に全員が高司中学校という、すっきりしたところになる。

先ほどの説明にあったように人数の関係で、光明町・小林が宝塚第一中学校になったという、いびつなことがあるが、その当時としては仕方のないことだが、今このことがあったら、危ない中津浜線を渡らずに、近くの平坦で高司中学校に行けたらいいなどは、校長としては思うし、当然、光明の子が良元に行くとなれば、やっぱり中津浜線を渡らなければならないので、そこは非常に心配である。

1年生は登校班で行って帰ってから、近くの子たちと公園で遊べるということにもすごく意味があると思うので、良元からこちらに引っ越してきた子の場合、もうちょっと緩和的なことができるかもしれないが、やはり家の近くの子たちと同じ学校に行けるというのがよい。

学力についての話があったが、5月29日の話し合いは、私がもっと発言をすればよかったかなと思うぐらいに、偏見に満ちた意見が続いた。私の立場で言っているのかどうかで迷ったが、その後、校長室にたくさんのお母さんが来られて、「あの時の意見はどうだったのか」「あれは差別じゃないのか」「校長先生はどうして何も言わなかったのか」「自分は言いたかったけど言えなかった」「6年生が急な判断を迫られてかわいそうって言われるけど、自分は6年の保護者だが1年早くしてもらえて本当に嬉しい」というようなこともあって、私の立ち位置が明確でなかったことを今反省している。

この場でもうちょっと賛成・反対とはっきり言っていたきながら、反対が多ければ、また差し戻しになると思う。

委員

校区編成によって、今まで宝塚第一中学校に行っていた10数人かだけだが、高司中学校に行くとなった場合、1学年10数人ではあるが、今までよりも生徒数が増えることに対して、教員の増員みたいなどころはあるのか教えていただきたい。

今、高司中学校もちょっと大変で、正直、先生たちは教員が足りないということが保護者の耳にまで入ってくるぐらい言われているので、教員数の見直しであるとか、増員というところ、その辺もどう考えられているのか教えてもらいたい。

事務局

基本的には教員の配置というのは、兵庫県の配置基準に基づいて配置される。

ただ、自治体ごとに、どんなことで教員を増やして欲しいかという増やせる枠というのもあり、どれを選択するかによって、どこの学校にどの程度増やすかというのも変わってくるので、高司中学校の学校の課題というものに着目した時に、他校ではない大きな課題があるというふうに

教育委員会が判断すれば、そこに増員されるような措置というものは、県とも協議しながら配置基準の見直しも含めて、調整はしていきたいと思う。

それと、県の基準・費用でもって教員が配置されている。市の税金で教員の給与は支払われていないが、市内に3人だけ、市が配置している教員がいるので、その配置については教育委員会で判断できることから、その配置も含めて検討していきたいと思う。きちんと学校の実情を見て、こちらも協議しながら配置について検討していきたいと思う。

委員

差別とか、そういうふうにとられたなら、申し訳ないと思うが、一個人の意見として申し上げたいのが、学校間の格差が払拭できない部分が私自身にもすごくあって。選択制にするのであれば、そこを明確にしてもらいたい。

例えば、進学率の差とか、何人がどこに行ったとか、%で書いたりとか、後、部活に何があったと、その中で親御さんと子どもさんをご相談しながら、ここなら自分に合っているかなという、高校を選ぶ時もそうだと思うが、自分が何をやりたいか、何を求めてそっちに行くかというのを、ただ単に距離が近いから、ただ単にみんなと一緒にだからというのではなく、やっぱり反対している親御さんの気持ちとしては、払拭できない部分があるので、払拭できる根拠があれば、多分、反対派の方も納得できると思うので。その辺を書面にし、こういう学校ですよ、というのを提示した上で、選択してもらおうのがいいのかなと思う。すごくフワツとした話で、メリットがありますよ、近いですよ、熱中症の懸念が減りますよ、とか、そういう子どもの通学・登校への負担とか、そっち方面へのプッシュがすごく多いと思うが、本来通うのは子どもであり、選ぶのも親御さんと一緒に多分選んでいくと思うので、その辺を明確にしてもらいたいというのは、親の視点で思う。

事務局

進学率について、高校に行くと、どこの大学にいわゆる国公立に今年は何人進学したのかというのが比較的公表されているケースがある。中学校でも、私立ではよくどこに進学したということが公表されているが、公立においては、宝塚市だけではなく、他市も含めてが、進学率というのは原則として公表していない実態がある。そこを公表していくというのは、なかなか難しい大きな課題がたくさんあり、検討する余地がほぼない状況のため、あまり前向きな答えがでない。

公立中学校から県立高校であるとか、偏差値がいくつ以上の学校にどの程度進学したかということは、学校での教育内容そのものに大きく影響されるものなのかどうかということも含めて、分析していかなければならない。

それから、学校というのは、市内で人事異動をし、進学に特化した教員がいるわけでもなく、そういうものを意図的に配置しているというものでもない。また、そういうことを大きな目的として教育活動をしているわけでもないということから、そういう結論になっている

ただ、学校の情報というのは、これはいつの時代であっても、地域・保護者に対して開かれた学校というものにしっかりと取り組んでいかなければならないので、宝塚第一中学校と高司中学校だけではなく他の学校も含めて、地域に対して学校での取組をしっかりと周知するようにホームページの工夫とか、今でも結構取り組んでいる。オープンスクールで学校を見ていただく、或いはそれ以外の時でも、学校に相談し、場合によっては見に来ていただくこともできるような、そんな機会をしっかりと持つようにしていく。

事務局	<p>小学校の方でも学校の行事として意図的に中学校に見に行くという機会も設けているので、この過渡期については、当然、光明小学校でもそういう活動を継続していくことになろうかと思うので、一番は子どもがしっかりと選択できるような、そんな環境づくり、それと保護者に、或いは地域の方に、今学校がどういう状況なのかということをしかりと伝えていく場面というのは作っていききたいと思う。</p> <p>もう一つは、学校運営協議会というものができており、学校の抱える課題というものは地域や保護者の代表の方々といろいろ相談をしながら、解決を図っていかうという取組をしているので、そうした学校運営協議会の活動で、もう少し周知することも含めて、学校には一定の指導を今後していきたいと思っている。貴重なご意見を感謝する。</p> <p>お時間も限られているので、今までいただいたご意見で、教育委員会事務局でまとめさせていただいたが、「7 光明小学校から進学する中学校について」で書いている内容で進めさせていただくことで、問題等ないか。</p> <p>～意見等なし～</p> <p>特に意見等はないので、この内容で地域の意見として、まとめさせていただく。</p> <p>この内容に沿って、今の6年生たちに対しても、早めに学校を選べるような形で、取組を進めていききたいと思う。本日はお忙しい中、お時間を頂戴し、ありがとうございました。</p>
-----	--